

令和 3 年第 2 回月形町議会定例会一般質問通告書

順番	1	質問者	松 田 順 一	発言 時間	答 弁 を 求める者
質 問 事 項			質 問 の 要 旨		
1 J R 札沼線廃止後のまちづくりについて			月形町の重要政策及び施設整備を推進するため、「まちづくり推進室」が 4 月 1 日付で設置された。 その政策課題の中には、旧 J R 石狩月形駅周辺の整備や線路敷地の譲渡。また、バス転換に伴い、月形小学校（グラウンド）への拠点化施設の整備。そして小学校の中学校への移転・整備など、J R 札沼線廃止により、多岐にわたり課題が出てきた。 その他、長年の課題として、温泉施設等の改修及び道の駅などの観光施設の整備や町営住宅の建て替え等など、老朽化している施設の更新も含めて早急に取り組む必要がある。 この「まちづくり推進室」の実効性をいかに担保するかは、町長の決意と覚悟が重要に思える。20 年先、30 年先の月形を見据えた町長の考えを伺いたい。	30 分	町 長

令和 3 年第 2 回月形町議会定例会一般質問通告書

順番	2	質問者	我 妻 耕	発言 時間	答 弁 を 求める者
質 問 事 項			質 問 の 要 旨		
1 月形町における自動積雪深計の設置について			①令和 2 年度は月形町をはじめ、局地的に降雪量が多く、2 月 2 4 日には吹雪によって国道 2 7 5 号線や道道が通行止めにもなり、月形町も温泉ホテルに避難所の設置をするなど対応することとなった。平成 2 3 年度の大雪に続き、農業ハウスの被害も出た。 近年の傾向として、気象変動が極端化し災害も激甚化している。降雪も、除雪体制のひっ迫や、高齢者の孤立、住居の損壊の懸念、雪はね、雪下ろしなど町職員の多大な労力の提供など、改めて大きな影響を感じる冬であった。 ②積雪の深さを計測するにあたり、現在月形町では計器の故障以来、人による計測となっている。空知でも豪雪地帯の月形町にとって、自動の積雪深計設置は、農業者や町民、行政にとっても、その間断なき情報による迅速な対処が可能となる。それが積雪深計を含めたアメダスとなれば、対外的にも雪に関する情報を発することができ、国道の安全通行にも繋がる。アメダスに積雪深計がある場所は、空知では深川、芦別、美唄、岩見沢、滝川、夕張であり、国道 2 7 5 号線沿いには設置されていない。そこで、防災の観点からも、月形町におけるアメダスに付随する自動積雪深計の設置は町内外にとって有効と考えるが、その必要性について町長の考えを伺いたい。また、気象庁等の関係機関への要望等について行う考えはあるか伺いたい。	3 0 分	町 長

2 旧ＪＲ鉄道敷地の跡地活用の手続きについて	今年４月に月形町より「札沼線鉄道跡地活用の基本方針（素案）」が出された。その中では、活用方針と活用方法が列挙されていた。 「住民への譲渡」の他に「交通インフラの整備」「公営住宅の整備」「憩いの場の整備」「鉄道レガシーの継承」、旧駅舎・ホームの扱いについて列挙されており、先日開催された住民説明会でも報告された。譲渡についてなどは具体的なものであり、他についても、今後住民からの意見聴取などを待って決定することであるが、これら素案について ①特に譲渡以外の素案で担当部署内でどのような議論があって基本方針となったのか。また、②現在（５月２８日現在）募集している住民からの意見の内容や、それについての扱いは今後どのようなになるのか。そして③その後の素案から実施への流れはどのようなになるのか伺いたい。	４０分	町 長
-------------------------------	---	------------	------------

令和3年第2回月形町議会定例会一般質問通告書

順番	3	質問者	東 出 善 幸	発言 時間	答 弁 を 求める者
質 問 事 項			質 問 の 要 旨		
1 飲食店に対する新型コロナウイルス感染対策認証制度の実施について			緊急事態宣言の発出による外出自粛により、町内飲食店は大変厳しい状況である。今後、外出自粛が緩和されても、以前のように人流が戻るか懸念されるが、飲食店を訪れる人が安全安心に、そして飲食店の方々も安心できるよう、町として更に感染対策を支援し、認証ステッカー等を交付する考えはないか、伺いたい。	20分	町 長
2 新型コロナウイルスワクチン接種時期について			本町においても接種の体制が整い、スケジュールも決まった。5月25日の北海道新聞空知版に管内24市町の高齢者接種の状況が掲載されていたが、本町の開始日が他の市町と比べ遅い開始日となっている。その理由を伺いたい。	20分	町 長

令和 3 年第 2 回月形町議会定例会一般質問通告書

順番	4	質問者	楠 順 一	発言 時間	答 弁 を 求める者
質 問 事 項			質 問 の 要 旨		
1 まちづくりの全体像と優先順位について			本町におけるまちづくりの中長期的なビジョンは、「総合振興計画」「地方創生総合戦略」という形で策定されてきたが、「総合」という名のとおり総花的・網羅的であり、町民にもわかりやすい骨格的なグランドデザインではなかったといえる。現在、ＪＲ札沼線の廃止によって、まちの基本構造そのものの転換を迫られる中で、拠点施設の整備と皆楽公園内施設の改修・改築、加えて積年の懸案であった「道の駅」設置は、いずれもこの先、少なくとも２０年から３０年先を見据えたまちづくりの帰趨を決すると考える。 この際、個別の課題に着手する前に、首長として将来に向けたまちづくりの全体像と優先順位を明快に示すべきではないか、伺いたい。	60分	町 長
2 ＪＲ札沼線跡地活用に対する町長の姿勢について			現在、町はＪＲからの譲渡に向けて札沼線跡地活用の素案を示し、町民への説明会も実施されたが、参加者は限られていた一方で、翌日の北海道新聞には「公住や公園整備検討」とあたかも既定事実であるかのように報じられた。 「素案」の内容はレガシー（遺産）の保存と言いつつも駅舎の解体やホーム撤去を含み、跡地を過去の遺物の如き扱いとを感じる。	40分	町 長

(1)「苦渋の決断」を下した重みと「素案」に対する町長の真意について	上坂町長は「苦渋の決断」として廃線受け入れを決断したが、現在の動きは余りにも変わり身が早いと感じざるをえない。「苦渋の決断」は、私も含め多くの町民にとっても同様であり、「歴史」となりつつある廃線後の姿にいまだしっかりと向き合えていないのが、実態ではないかと考える。 この時期に、このような形で「素案」を示し拙速に進めるとしたならば、「苦渋の決断」を下し、わが町の新たな歴史を刻んだ首長として、その重みを感じているのか、大きな疑問を持たざるを得ない。町長の真意を伺いたい。		
(2) 旧石狩月形駅舎の保存について	跡地の中で、沿線農業者の要望への対応を優先することは理解するが、旧石狩月形駅については、町民にとっては思い出の場所であり、周辺施設を含め貴重な鉄道遺産でもある。札沼線の歴史を物語るシンボリックな存在として保存に値する価値があると考えますが、町長の見解を伺いたい。		